

NPO 法人 たすけあいの会 ふれあいネットまつど 会報 第 38 号

え が お

発行所: 松戸市東平賀 7 番地の 2 電話: 047-346-0866 E-mail: frm2011@r4.dion.ne.jp

明けましておめでとうございます

左から本郷谷健次松戸市長、佐久間浩子副代表、講師の田中尚輝氏、前列に島田喜七代表（12月1日に開催した団塊世代の地域デビュープロジェクト「映画と講演のつどい」会場の松戸商工会議所にて）



『一人で見る夢は実現しないが、みんな

で見る夢は実現する』を合言葉に

代表 島田 喜七

皆さま、新しい年をどのように迎えられるのでしょうか。

昨年は、「困ったときはお互いさま」のたすけあい活動を柱に据えながら、「講演と福祉相談のつどい」、「ふれあいコンサート」、「認知症講演会」、「団塊世代の地域デビュープロジェクト」など、社会貢献活動を旺盛に行いました。会内外の皆さまのご協力に改めて感謝申し上げます。

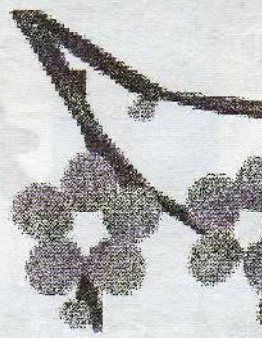
本年は、ふれあいネットまつどの歴史の上で初めて、将来構想を具体的な計画として定める年にしたいと考えています。会設立以来、毎年着実にたすけあい活動を積み重ねてまいりました。それを土台として、会員や地域のみなさんが集える「居場所」づくりを、制度の枠内外を結び付けて豊かに多彩に構想し、その第一歩を踏み出す年にしたいと思います。

「一人で見る夢は実現しないが、みんなで見える夢は実現する」を合言葉に、今年一年活動してまいります。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

新春座談会

・あのころの『思い出』を語る・



タイトルを『えがお』として再スタートした会報、その記念として入会の比較的早い会員にお集まりいただき当時のお話を伺いました。

出席者 島田喜七(代表)、佐久間浩子(副代表)、小池千恵子(元副代表)、中原勇(理事)、飯島信一(理事)、奥田義人(副代表・事務局)、石原順一(進行・理事)

入会のきっかけ

島田 入会のきっかけは、他に会を知らなかった、たまたまあの島田車を借りてくれるところが「ふ



島田喜七さん

れあいネットまつどでした、そこで島田車を働かせることとした。(島田車(島田代表個人の登録車))
佐久間 あの時、車椅子ごと乗れる車なんてはじめて見ました。
島田 車を購入したのも、自分で入院中の妻の所へ行くのに使う予定が、自分で運転出来ないのです。
石原 当時は島田車1台でしたね、その車で車椅子利用者のサービスを全て賄っていた訳ですか。それでは佐久間さん、普通の主婦がどうして会に携さわるようになったのでしょうか。
佐久間 入会のきっかけとか、会の創立とかではなく、

下の子がまだ中3で、そんな気もなくさわやか福祉財団の勉強会に参加したりしていました。1998年4月に旭神経内科の病院の先生が、一軒家が空いている



佐久間浩子さん

ま」の有償ボランティア団体を作ろうと言うことになったのです。
会の名称は、ふれあいネットまつど・まつどふれあいネットの二つの案が出されましたが、収まりのいい「ふれあいネットまつど」になりました。

石原 「ふれあいネットまつど」としてスタートしたのですね。それではみなさんの入会のきっかけをお聞かせください。



飯島信一さん

小池 2000年に仕事を辞めまして、長い間地域のボランティアをやっていて、2001年ふれあいネット主催の田中尚輝さんの講演会に参加したことがきっかけとなり入会しました。それから一生懸命に勉強しましたが、

飯島 入会のきっかけは、島田さんから

から使っていたです。すよと言われ、ボランティアをやっていた主婦を中心に「困ったときはお互いさ

らしい所があるからとアドバイスを受けたのがきっかけで、2000年1月に入会しました。
石原 その後、飯島さんは事務所の庭の草取りや、事務所に柵を作ったり、玄関にスロープを付けたりと、連日事務所で働いていましたね。
飯島 当時はみるからに、事務所が何だ、これは！と思ひ、いろんな事をやりました。
中原 私が入ったのは、ある方からこういう活動をしている会があるが、運転をする人がいないので手助けをして貰えないかと誘われ、ちょうど会社を退職したばかりだったので軽い気持ちでお受けし、入会しました。
石原 2000年7月に入会され、会

の中では一番長く送迎サービスをされている訳ですね。それに行事などにはいつも参加され、準備のための設営などに毎回協力されていますね。
島田 中原さんは、字義どおりの、本当のボランティアです。
佐久間 いろんな所に出てきてくださって助かります。
中原さんを始め、現在30

人を超える運転ボランティアの方が

います。開設以来一度の事故もなく現在に至って、この話をするときみんなビックリされます。

中原 事故のないように気をつけて

きましたね。安全運転で利用者会員に安心感を持って貰うことは、一番です。飯島 全員が安全運転に努めているのはすばらしい。

奥田 協力会員の中で、回数や距離では中原さんが移動サービスが一番です。



中原 勇 さん

石原 運転者研修会を毎年実施してきました証かもしれな

いですね。それでは『論』が先立ってしまおうの

が良くない傾向と話されていた奥田さんの入会は。

奥田 2001年2月に市民協のセミナーに参加したのがきっかけで、いろんな福祉系NPOを見学していたところ、同年4月の「広報まつど」でふれあいネットまつどのシンポジウムが開催されるのを知り参加しました。その後すぐに入会しました。

石原 現在は、会の中核として活躍されていますが、会の中や外郭組織などとの軋轢はないですか。

奥田 その組織の文化や風土だとか、そういう事を理解しないで、僕のやり方とか価値観でずげけ言ひすぎていました。やっぱり創立期の人の苦労

だとか、重ねてきた歴史を尊重しきれ

ていなかったんですね、今思うと。

小池 佐久間さんが代表の時もいろいろありました。会議では泣いた事も

ありましたが、現在、会の運営は順調

になってきているのではないですか。

石原 みなさんの入会のきっかけをお聞きしましたが、はじめの頃の会の目標はありましたか。

島田 資金をどうやって稼ぐかが目標だった。事務所があれば維持費や経費も必要で、今月どうしようかと考えていました。

佐久間 何かで資金を生み出さなければと、バザーをはじめ、新松戸祭りや、フリマに出店したり。

島田 市民センターを利用してのPRやボランティア活動、シニアの地域デビューセミナーなどいろんな事を実施して、協力会員や利用会員を増やしてき



小池千恵子 さん

ました。

小池 世の中がかわって、男の出番が今

すごく多くなつてきてます。

石原 資

金や仲間を探す事の大変さがよく分かります。

佐久間 島田代表の存在感がすごい

と思います。会員全体の求心力はな

っています。ご本人は分かっているら

っしゃらないけど・・・

ふれあいの灯を消すな

奥田 一人の強力なリーダーシップで引張っていく会ではなく、みんな考えてみんな決めていくというのを大切にしている会です。歩みはのろいかもしれないが、会員の全員参加型の運営をしているというのは、私たちの

会の大きな特徴だと思います。

2005年から2006年にかけて会が苦しかったころ、飯島さんの、「ふれあいの灯は消すな」の言葉は、会員みんなの合言葉になりました。

佐久間・小池 あの言葉には勇気づけられました。

お互いさまの気持ち

石原 人が集まり、協力会員と利用会員に分けられる。お互いの距離間の取り方は難しくありませんか。

中原 お互いさまの気持ちが一番、自分の都合より利用してくれる気持ち

を大事にしたい。

佐久間 誰もが、やって良かったと思えるようにしたい。そこに気持ちを込めてやって行くことが大切です、ね。

中原 利用会員の事を考えると、会の方針とは違うことをしてあげなければならぬ時もある、でもしてしま



奥田義人 さん

と会の方針にそむいてしまつ、その辺りにジレンマがある。

佐久間 割り切る方が難しい。

小池 僕は協力会員だよ、利用会員の方達は別だよって言う考え方じゃなくて、同じ会員同志という事を考

えて活動する事が大切だと思います。

佐久間 今までいろいろあったけど、根本のところは変えずに行きたいですね。

奥田 「困ったときはお互いさまのたすけあいの会」を基本にしながら、今後は、社会状況の変化に的確に対応出来るようにしていきたいと思ひます。

石原 いろいろと貴重なお話を伺うことができました、これからも「たすけあい」の精神を忘れないで活動して行きたいと思ひます。

口座談会を囲んでの座談会は口達者な方ばかり、たびたび本題の話から外れてしまうも、その外れた会話から当時の状況を読み取ることができました、紙面の都合で一部のみの掲載となりましたが、笑顔で話せる仲間ってすばらしいと感じた2時間の座談会でした。(赤とんぼ 記)

わたしの夢・願い

島田喜七 うさぎ年 ホップ・ステップ・ジャンプ・飛び過ぎないようにしたいです。

斎藤政夫 安全運転に心がけ、一年でも長く活動が出来ればいいと思います。

大井俊敬 僕の夢は、好きな人と結婚して家族を持つことです。

清水哲男 あちらこちらと、パッチワークの連続の日々を過ごしています、今年は、少しずつ良くなりたいな、と願っています

村上健一 うさぎのように、いつも元気に飛び跳ねていたい、そしてできれば・・・うさぎのように好かれるように。

山中幸久 投票に行けるまで回復しました 1。今年の新松戸駅を目標に、一步一步自分の足でがんばってまいります。

大野亮平 「一人で見る夢は、ただの夢」「みんなで見るとは、現実のとなる。」
ヨーコ小野さんの言葉より

松宮秀雄 新たな人生のスタートとして介護分野を選択しました(細く)長く継続できることを願っています。

細嶋千広 私は、老人保健施設に勤務をしています。年に数人ですが在宅復帰をしている人もいます。そういう方に福祉有償運送の制度を知っていただきQOLの向上が出来るようになって頂きたいと思っています。

奥田義人 トーネン取って、50歳になるうさぎ年。ピョンピョン跳ねて、スカイツリーのテッペンまで登りたい。

㊟あみなさん

㊟う一度

㊟かしてみましよう

㊟たしの夢を

㊟ってみましよう

㊟おきな夢を

㊟佐久間 ㊟森田

㊟酒巻 ㊟渡辺

㊟山本 ㊟奥田

ふれあいネットまつど事務所スタッフ一同

2011年兔年

中原勇 今年度は、以下の三箇条を実施して4安全運転に努めます①“だろ”思考の禁止②“お先にどうぞ”-の余裕の運転③目的地に余裕を持って到着し行動する。

鎗田弘子 趣味で10号程の絵を描いています、今年には20号に「うさぎ跳び」しようかと思っています。

佐久間浩子 だれもが笑顔で集える「居場所」ができるといいな。ふれあいネットまつどらしく、みんなの力が集まればきっと実現できるはず!!

山本外志子 私たちふれあいレディーズ(正会員6名)は、これからAKB48に負けない様なパフォーマンスを目指し今後洋々な(音楽・ダンス・話術)にチャレンジして参る所存です。

渡辺 薫 私たち家族は、Jリーグ「柏レイソル」を応援しています。今年はレイソルが残留できることを願っています。

岡田トミ子 会のみなさん、とてもよく率先して行動しています、本当に感動ですね。私も会のみなさんに少しでもお役に立ちたい、一人一人が心豊かに、そして幸せになって欲しいと思っています。今、古屋のあとに新築を考えています、みなさん方と楽しく利用できればと思います。

石原順二 いつか夢見た大きな虹のかかる街、あの町を訪ねて見たい、そしたらどこかにもう一人いる自分ときっと会えるかもいれない。しらない町を歩いてみたい〜 どこか遠くへ行きたい〜♪。

月井利枝 健康で思い思いの願いをかなえられるようお願いをします

石瀬 満 我が愛娘。願望 婚活に励んでいるらしいのですが?縁がなくて!!(縁頼み)でしょうか!

飯島信一 娘と一緒に楽しく一家で過ごしたい。

森田トミエ 利用者さんが笑顔になれるよう頑張ろう。

おめでとーい



頼りになります！

千葉県たすけあい協議会

副会長 堀田 きみ

たすけあいの会は、全国各地にたくさんあり、介護保険などの制度でまかないきれないニーズに柔軟に対応して、いろいろな会についての情報はあまり行き渡っていないようで、時々こんな問い合わせが来ます。

現在、ふれあいネットまつどさんを始め、県内の63団体が属しています。その中であって、ふれあいネットまつどさんは、他団体を大いに元氣付けてくれる、とても輝いている団体です。いつもお便りで、活動の様子やら、利用者さんを交えた親睦旅行やら、の楽しげな様子を拝見しております。対人援助の仕方を学ぶコーディネーター研修に熱心に参加し、常にたすけあいの理念を問いつつ、団体の運営について懸命に模索する姿をまぶしく拝見してきました。また、協議会の役員としても活躍いただいています。

今後、地元のみならず、周囲の諸団体にとつて、パワーを与え引張ってくださる存在として、ますます輝いてくださることを期待しています。

ふれあいネットまつどに期待します



「こんど〇〇市に引越しますが、そちらにもたすけあいの会はありますか？ 連絡先をおしえてください。」△△市の病院に入院することになりました。家族の手が足りない分を補ってくれるところを紹介してもらえませんか？」
そんな時に、たすけあいの会同士の横のつながりがとても役に立ちます。日頃の連携、ネットワークがあると安心して紹介することができま

す。
「千葉県たすけあい協議会」は、県内で住民参加型のたすけあい活動をしている団体の集まりです。たすけあいの団体が連携し、ともに学びあ

ああ良かったと言えるように

松戸市社会福祉協議会

地域福祉推進センター長 佐藤 英美

今年大ブレイクした「ゲゲの女房」。連続テレビドラマや映画は多くの視聴者をくぎ付けにしました。また、作家水木しげる氏の出身地「境港市は、「ゲゲ」で街おこしに成功、過疎化の進む街は一変し全国から注目を集める一大テーマパークとなりました。その「ゲゲ」の中には、夫婦の絆・家族の絆さらには向う3軒両隣りといった現代の社会では希薄と言われている人と人とのつながりが生き生きと描写されています。元来、家族関係も地縁も代々脈々と継承されるものでしたが、社会構造の変化と共に、意図的な介入なしには次代へとは伝わりにくいものとなりました。その影を大きく落としていくのが、まさに在宅介護の場であり高齢者や障がいのある方々の生活の場です。このご時世だれでも自分のことで精一杯の状況は理解できるもの、ちよつとした心使いやことばがけがあれば、さらには小さな助け合い、支え合いが集まれば、つらさは半分、笑顔は倍のかがやきを増すこともあ

るはず。そのふれあい・支え合い・助けあいの精神を地域の中で広げようと着実に活動されているのが、ふれあいネットまつどさんです。

地域の住民同志が助けたり助けられたりしながら心を通わせ支え合う仕組みは、援助を必要とする人の支えとなることはもちろん、支える側の「役に立ちたい」思いもかなえてくれるだれもがいきいきと安心して暮らせる街づくりのツールとなりつつあります。ふれあいネットまつどさんのたすけあい活動がこれからも多くの方々の参加と協力を得て、ますます発展されることを期待していますし、地域福祉を推進する社会福祉協議会としても連携の和を広げて行きたいと思っております。

「ゲゲ」は、終わりよければすべてよし！と今を生きる人たちにエールを送ってくれました。人生に失敗はつきものですが、ふと一息ついてふり返った時に「ああよかった」と言えるように、自分にできることをできる時にできる方法で、支え合い・助け合いの精神で一緒に頑張っ

て行きましょう。
「協働連帯の輪」欄は市民活動・ボランティア活動の情報交換コーナーです。第1回はふれあいネットまつどへの期待と注文を寄稿いただきました。

事務局だより

ふれあいコンサートを開催

第6回ふれあいコンサート(主催:行事・イベント委員会/委員長:石原順二理事)が10月21日(木)小金原市民センターホールを会場に開催され、松戸市広報等で知った市民、ご招待した5か所のデイサービスのみなさん、会員あわせて130人余の参加がありました。第1回からボランティア出演して頂いているマーヴェラス・チューンのみなさん



1回からボランティア出演して頂いているマーヴェラス・チューンのみなさん

11月



スライドを使って講演する旭俊臣先生、磯邊麻美先生(右から)。

認知症講演会に160人

11月13日(土)、会場の松戸市小金原市民センターホールを一杯にして、第1回ふれあい市民講演会(後援:松戸市医師会・松戸市社会福祉協議会・小金原連合町会)が開催されました。講師に旭俊臣先生を招き、「認知症の発見と対策」と題して一時間余の講演。続いて松戸市介護予防推進担当室の磯邊麻美先生が「認知症サポーター概要とあんしん一声運動の現状」と題して松戸市の認知症対策について解説しました。これに先立ち、島田喜七代表の開会あいさつ、佐久間浩子副代表がふれあいネットまつどの活動を紹介しました。この催しは、松戸市市民活動助成事業の一環として、助成事業委員会(委員長:石瀬満理事)が行ったものです。

運転者研修会を開催

12月4日(土)小金北市民センターを会場に、今年度2回目の福祉有償運送運転者研修会が開かれ、協力会員22人が参加しました。今回は、千葉県交通安全協会連合会にお願いをして運転適性診断車に来てもらい、運転行動の適性診断を行いました。

12月



適性診断車の前で。左から運転協力者の細嶋、中原、石瀬、石原、佐久間、森田、岡田さん

新入会員紹介(十月、十一月)

- (十月)
 - 八幡順子 印東 美洋子 青木 正次
 - 西村 泰久 浅野 創慈郎
 - (十一月)
 - 月井利枝 森 繁一 大野 亮平
 - 佐藤ヤク 川瀬 征俊 松宮 秀雄
- *敬称略

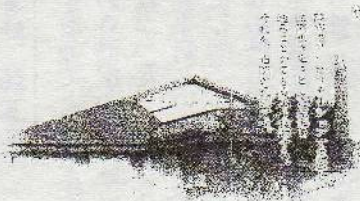
医療法人社団弥生会

旭神経内科リハビリテーション病院

<http://www.yayoikai.or.jp>

松戸市栗ヶ沢 789-10 TEL:047-385-5566

受診・入院等のお問い合わせは相談室までご連絡ください



併設施設: 介護老人保健施設/
通所介護/訪問看護/訪問介護
/居宅支援事業所/小金原地区
在宅介護支援センター

介護保険工事件数が5,000件を超えました。

この経験により、最適な改修プランや用具レンタル

用具販売をトータルでご提案致します。

介護住宅リフォームの専門店
福祉用具レンタル・販売

㈲ジエイエム建築企画

本店/〒271-0074 千葉県松戸市緑ヶ丘2-257-2

TEL:047-330-0022 FAX:047-330-0027

柏事務所/〒277-0852 千葉県柏市旭町7-1-10-202

TEL:04-7141-6267 FAX:04-7141-6268

私が育った故郷のお正月

■子供の頃の雪の思い出

森田 トミエ (2004年入会)

夜のしじま、バーン、バーンと音がする。

しんしんと雪が降り竹の葉に雪が積もる、その重さで竹がしなり爆破する音で沢山雪が降

っている事を感じ取ることが出来る。

朝起きると案の定40〜50cmは積もっている。私の育ったところは、新潟の中蒲原平野で集落十軒しかない片田舎だ。雪の降った朝は学校へ行く子供たちのために各家庭の父母

祖父母が、かんじきを履き道を作ってくれる。新雪で子供達は歩けないからだ、今思えば大変な作業だ。

昨今は、雪が降れば除雪車が来てくれる。重労働から解放され有りが



たいことだあるが、少々風情がなくなり寂しい気がする。一月下旬になると何回も降った雪が積み重なって雪の上を歩くことが出来るようになる。

田舎では「凍み渡り」と言う、気温が下がった日の朝は雪が凍り、天気のよい日には凍み渡りができる。雪に太陽が反射し、キラキラ輝いてとても綺麗だ。学校へ行く時は田んぼの中の雪の上を斜め横断し、時間短縮を図り登校する。子供の知恵だ。冬の遊びでは、雪合戦・迷路づくり・落とし穴(道に穴を作り足跡をつけた雪をそつと置く)落ちる手を叩いて囃したてる。今思えばとても危険なことをして遊んでいたものだ。しばし故郷に思いを馳せました。

■伊勢志摩の思い出

伊藤 壽弘 (1998年入会)

昭和17年から終戦の年までの間、父親が 戦地フライピンから帰国するまでお正月は故郷・三重県伊勢志摩で迎えました。(現・志摩市志摩町和具)。南側は太平洋、北側は英虞湾という入り江、東側は伊勢湾沿岸道、西

側は半島の末端で御座という集落です。御座からは英虞湾の対岸の尾鷲町、更に西南の遠方に大台ヶ原や紀州の山々が遠望されます。年少時、志摩のお正月は、氷が張り雪が降り寒いことが多かった。師走から旧正月明けまでの間は、頬つぺたを真っ赤にして、手足のひび割れにも負けないで、海辺や砂浜、田畑や森、小川また湧き水などで、冬のいろんな遊びと親たちの仕事の手伝い(?)夫々が思いだされます。

年少時、『伊勢志摩の地は、天照大御神に代表される伊勢の神々が海路を志摩半島から伊勢の地に入り、大和・奈良に都を開いた歴史がある土地である』と古老たち(と言っても今の私の年より若かったでしょうが...)から、いろいろと歴史伝承などを聴かされました。晴天の時に伊勢・鳥羽市の展望台から西方を展望しますと神々の、降臨されていると想われる峰々が彼方まで続いています。



伊勢志摩のお正月は、伊勢神宮参りや関連の神社参り、子供たちが

が元気で育つようにとの魔除の行事などが懐かしく思い出されます。ここ十数年、母の在宅看護のことで、故郷にご無沙汰していますが、年少時代の思い出に心が熱くなりました。

東平賀7番地 編集局

みなさん新年おめでとうございませう。不況という渦中から抜け出すことのできなかつた、平成22年でしたが、無事新しい年を迎えることができました。

今年(卯年)ですが、うさぎは活動力や積極性、発展性を表し、発芽のような柔軟性を備えているといわれています。■卯年の「卯」の字は「茂る」という意味があり地面を草木がおおう状態と詠みます。薄毛の編集長はこの干支をお頭に肖りたいとおもいます。■烏兔々々(うとそうそう) 月日が過ぎるのが早いこと。中国の伝説で太陽には烏(カラス)、月には兔が住むといわれていたことから、太陽と月が日月(じつげつ)となり月日のたとえを「烏兔」と表すようになったそうです。毎日を元気に無駄のないように、そして笑顔連続の日々が続きますように、本年も「ふれあいネットまつど」の広報誌「えがお」の後押しをよろしくおねがいいたします。■今号より、紙面に団体賛助会員のご紹介を広告のスタイルで行っています。今号は2団体ですが、順次増やしていきます。

(編集長 赤とんぼ)